

第 28 回建設業経理士検定試験 2 級試験問題

< 第 3 問 >

現場技術者に対する従業員給料手当等の人件費（工事間接費）に関する次の<資料>に基づいて、下記の問に解答しなさい。

<資料>

(1) 当会計期間（20×1 年 4 月 1 日～20×2 年 3 月 31 日）の人件費予算額

①従業員給料手当	¥ 64,350,000
②法定福利費	¥ 7,326,000
③福利厚生費	¥ 3,524,000

(2) 当会計期間の現場管理延べ予定作業時間 23,000 時間

(3) 当月（20×2 年 3 月）の工事現場別実際作業時間

A 工事	280 時間
B 工事	170 時間
その他の工事	1,450 時間

(4) 当月の人件費実際発生額 総額 ¥ 6,130,000

問 1 当会計期間の人件費に関する予定配賦率を計算しなさい。なお、計算過程において端数が生じた場合は、円未満を四捨五入すること。

問 2 当月の A 工事への予定配賦額を計算しなさい。

問 3 当月の人件費に関する配賦差異を計算しなさい。なお、配賦差異については、借方差異の場合は「A」、貸方差異の場合は「B」を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

※ 次ページより解説があります。

< 第3問の解説 >

問1 当会計期間の人件費に関する予定配賦率を計算しなさい。なお、計算過程において端数が生じた場合は、円未満を四捨五入すること。

$$\begin{aligned}\text{予定配賦率} &= \text{予算額} \div \text{予定作業時間} \\ &= (\text{¥}64,350,000 + \text{¥}7,326,000 + \text{¥}3,524,000) \div 23,000 \text{ 時間} \\ &= 3,270 \text{ 円/時間}\end{aligned}$$

問2 当月のA工事への予定配賦額を計算しなさい。

$$\begin{aligned}\text{A工事への予定配賦額} &= \text{予定配賦率} \times \text{A工事の実際作業時間} \\ &= \text{¥}3,270 \times 280 \text{ 時間} \\ &= \text{¥}915,600\end{aligned}$$

問3 当月の人件費に関する配賦差異を計算しなさい。なお、配賦差異については、借方差異の場合は「A」、貸方差異の場合は「B」を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。

$$\begin{aligned}\text{予定配賦額の合計} &= \text{予定配賦率} \times \text{全作業時間} \\ &= \text{¥}3,270 \times (280 \text{ 時間} + 170 \text{ 時間} + 1,450 \text{ 時間}) \\ &= \text{¥}6,213,000\end{aligned}$$

$$\text{人件費実際発生額} = \text{¥}6,130,000$$

$$\text{配賦差異} = \text{¥}6,213,000 - \text{¥}6,130,000 = \text{¥}83,000$$

¥6,213,000 も必要だと思っていたら、¥6,130,000 で済んだので、有利差異。
有利差異は、貸方差異になります。

不利差異は費用 → 費用のホームポジションは借方 → 不利差異は借方差異。

有利差異は収益 → 収益のホームポジションは貸方 → 有利差異は貸方差異。

と覚えましょう。